

第 17 期中間事業報告書

(平成 24 年 7 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

平成 25 年 3 月 吉日
 日本システムバンク株式会社
 代表取締役社長 野坂 信嘉

当中間期におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に回復の兆しが見られるものの世界景気の減速の懸念もあり、不透明な状況が続いております。

そのような状況の中、当社はコインパーキング事業の更なる付加価値向上とマンション事業の完遂(今期中)に注力致しました。

コインパーキング(CP)システム運営事業は、前期より引き続き、直営駐車場の収益改善専任チームの強化により、売上の極大化とコストの極小化を図りました。また駐車場の利便性と付加価値向上を図るべく、電気自動車、プラグインハイブリッド車用の普通充電スタンドを積極的に設置、累計 80 か所となりました。更に鉄道系、商業系の電子マネー、クレジット対応の駐車場も開設(累計 30 か所)し、差別化を図った結果、売上高 1,301,769 千円(前年同期比 106%)となりました。

コインパーキング(CP)システム販売管理事業では、機器販売においては運営会社の投資意欲の向上とコンサルティング営業の推進により堅調に推移しております。またメンテナンス売上においてはメンテナンス対応能力及び質の向上に磨きをかける事により、売上高 1,051,311 千円(前年同期比 106%)と順調に推移致しております。

プロパティマネジメント事業は、物件の稼働率向上に注力し、一部物件の賃料値下げを行いました。その結果、入居率が向上し、売上高 142,024 千円(前年同期比 103%)となりました。

分譲マンション事業は、当中間期において3棟中2棟は既に完売しており、売上高 339,918 千円(前年同期比 123%)となりました。残り1棟については、住宅ローン減税の延長と過去最低の住宅ローン金利、また官民一体となった福井駅西口再開発による当該マンションの資産価値向上の追い風が吹いております。

その結果、当中間期における売上高は 2,835,155 千円(前年同期比 107%)と伸長致しました。しかしながらマンション事業の影響により、売上総利益 520,134 千円(前年同期比 95%)、営業利益は 35,980 千円(前年同期比 45%)、当期純損失は 28,259 千円となりました。

今後はマンションの完売に向けて全力をあげると共に、当社のコアコンピタンスであるCP事業に経営資源を投入し、恒常的な黒字体質とキャッシュリッチ企業を目指して参ります。

事業別の業績は以下の通りであります。

事業区別	金額	前年比
CPシステム運営事業	639,310 千円	105%
CPシステム販売管理事業	506,849 千円	103%
プロパティマネジメント事業	72,220 千円	105%
分譲マンション事業	84,923 千円	141%
その他	59 千円	5%